

第5回（仮称）都市のグランドデザイン有識者委員会

議事概要

日 時	平成 29 年 10 月 23 日(月) 午後 6 時 30 分～8 時 30 分
場 所	練馬区役所本庁舎 19 階 1902 会議室
次 第	<p>1 報告</p> <p>(1) 前回の議事内容について</p> <p>(2) 区民提案・意見募集の結果について</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 理想とする将来のまちの姿について</p> <p>(2) 目指すべき都市像の表現内容について</p> <p>(3) 今後の進め方について</p> <p>3 その他</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 回（仮称）都市のグランドデザイン有識者委員会議事概要まとめ ・資料 1 区民提案・意見募集の実施結果について ・資料 2 （仮称）都市のグランドデザイン有識者委員会のまとめ（たたき台） ・資料 3 目指すべき都市像の表現内容について ・資料 4 都市のグランドデザイン策定に向けた今後の進め方について
出席委員 名簿記載順 ・敬称略	今井 伸、久保田 尚、小泉 秀樹、瀬田 史彦、 只腰 憲久、村木 美貴、横田 樹広、井口 薫、 佐藤 公明、山本 勝一
欠席委員 敬称略	なし
区出席者	<p>副区長 黒田 叔孝</p> <p>副区長 山内 隆夫</p> <p>参与 斉藤 親</p> <p>技監（都市整備部長） 宮下 泰昌</p> <p>企画部長 佐々木 克己</p> <p>〔事務局〕</p> <p>企画部参事（企画部企画課長） 佐古田 充宏</p> <p>都市整備部都市計画課長 吉田 哲</p>

1 報告事項

【委員長】

報告について、事務局から説明をお願いします。

【都市計画課長】

議事概要まとめ、資料1 説明

【委員長】

実施方法としてホームページ、個別アンケートと区政モニターアンケートとありますが、それぞれの結果を合算集計して資料1の2～3ページに掲載しているのでしょうか。

【都市計画課長】

そのとおりです。

【委員長】

質問形式は、ホームページは自由記述だけで、個別アンケートとモニターアンケートは設問と自由記述となっていますが、自由記述はまとめたの記載でよろしいですか。

【都市計画課長】

結構です。

【委員長】

他に質問はありますか。

【委員】

回答者の属性、例えば男女比、年齢などでのクロス集計の結果はありますか。

【都市計画課長】

現在、集計中です。

【委員長】

区民提案・意見募集の結果から、本有識者委員会の認識や方向性と大きな相違はないことが確認できたと考えて良いですか。

【都市計画課長】

あまり差異はないかと考えています。

【委員長】

自由記述については、なかなかキラッと光るような提案もありますので、うまく取り入れていただければと思います。

2 議題

- (1) 理想とする将来のまちの姿について
- (2) 目指すべき都市像の表現内容について
- (3) 今後の進め方について

【都市計画課長】

資料2、資料3、資料4 説明

【委員長】

基本とする方針が主題になると思います。前回、住宅都市として将来像が必要ではないかとの議論がありましたが、語尾を「住宅都市」とすると要するに住宅都市になる。これからの社会を展望すると、IT化が今後進展し、在宅で仕事をするとか、あるいは自宅から近いところで働くなど、多様なライフスタイルが出てくると思います。そういう中で、住宅都市と言い切ると、住宅が静的にあるような感じがします。例えば、「生活都市」とするともう少しイメージが膨らみます。

【都市計画課長】

「住宅都市」とすると、定義がある程度狭まってしまうのではないかというのは、指摘のとおりだと思います。本有識者委員会における様々な視点での検討においては、多様な選択肢があっても良いかと思っています。

【技監】

確かに「住宅都市」というのは、現状で物事を言いすぎている部分があるのかと思います。これから暮らしが変わり、新たなライフスタイルも出てくるかもしれないということを考えると、30年後を見据え、住宅都市ではなくて、もう少し幅広く考えていくべきとの指摘は的確だと思います。

【委員長】

もう少し頑張ってもらわないと困ります。確かに「住宅都市として」と文脈のひとつとしてあるのは良いのですが、語尾にいくと意味が変わるので、工夫が必要かと思っています。

【委員】

資料3にある「都市のイメージ」というのは、これからもう少し作り込むのでしょうか。

【都市計画課長】

まさに作成途中であり、もう少し作り込む必要があると考えています。都市の機能をわかりやすくまとめて整理する必要がありますので、ご意見をいただきたいところです。

【委員】

基本とする方針の中に多様なライフスタイルとありますが、それが本当にわかるように表現する必要があると思います。先ほど展望台から練馬区を眺めてきたのですが、駅の近くはみどりが目立ちませんが、商店街もあり非常に利便性の高い生活環境だと感じられました。一方で、少し反対側にいくとみどり豊かで低層なまちがあります。練馬区の代表的なライフスタイルを送れることが、それぞれ一つの絵として見えるような形が望ましいと思います。グランドデザインを最終的にどのように見せるのかによって違いますが、個々でやりたいことはわかって、それをどこでやるのか、どういうタイプの市街地を目指すにはこういう施策が必要だといったことが示されていません。今回は即地的に示すものではないとしても、ある程度は明確にする必要があると思います

【都市計画課長】

有識者委員会での意見を踏まえて、区が策定するグランドデザインではライフスタイルも加味し、もう少し細かく表現することも考えています。

【技監】

区としてまとめるイメージについては、遠近感のある絵を描きたいと思っています。有識者委員会から、「こういう要素を盛り込んでいくべきじゃないか」という概念を絵的にまとめて、それを基にグランドデザインのビジュアルを構成できればと考えています。概念としてまとめるのであれば、こういうものを入れ込んでいくべきとの議論をいただければと考えています。

【委員】

「練馬区にこういうものが欲しい」程度だと、どこでも良い感じになりかねないので、この住宅地あるいはこのライフスタイルが送れる場所にはこれが必要だと、それくらいの具体性がないと、全体としてどういうまちを作りたいのかがわかりません。今日の意見を事務局が綺麗にまとめてくれるのであれば、それで良いのかもかもしれませんが、今日の資料を見る限りはやや心配です。

【都市計画課長】

資料3の別紙では、将来30年後の区民生活の様子やライフスタイルを文章でまとめています。一つの都市像の中で4つ程度、まちの将来像を具体的に表現して、その中で都市インフラの在り方とライフスタイルに言及することを検討しています。

【副委員長】

資料3にあるこの3つのパターンから選ぶということですか。

【都市計画課長】

そのように考えています。

【委員長】

例1だと1枚にまとめられた概念図が、この委員会の成果品として入る。例2は2つに分けて、例3は4つに分けるという事ですか。

【委員】

表現の仕方として、1枚に様々なものを詰め込むということなのか、2つぐらいに分けるのか、それともテーマごとに分けるのかということなら、今回示した絵自体にはあまり意味はないということでしょうか。

【都市計画課長】

今回のものはあくまでも例示であり、有識者委員会のまとめ方としてどのパターンを採用するかを議論いただくためのものです。

【委員】

やはり全体の構成がよくわからないと感じます。これまでの議論が何らかの形で埋め込まれると想像しますが、より具体的に成果物のアウトラインを示した方がいいのではないかと思います。そうではないと意見も言いにくいので、そのような形で次回まとめるようにお願いします。それと、ダイヤグラムの使い方ですが、最終的にランドデザインに繋がるものを有識者委員会の報告書にも多く作ったほうが良いと思います。その結果、何が表現できていて何が表現できていないのかという事を考えさせていただきたいです。パターンの判断を求められても答えにくいので、報告書の構成を明確にして、そこにどんな絵柄だとか、どんなダイヤグラムを入れるのかを事務局案としてまとめていただく方が、有識者委員会としても議論しやすいと思います。

【技監】

この有識者委員会でどこまで議論していただくかという話に関わるのですが、有識者委員会の議論を踏まえたうえで、区の責任で絵にすることを考え

ていました。今の話は、区としてまとめる絵を先に見ながら、こういう点をもう少し書き加えるべきなのではないかといった議論をする方が良いというご指摘でしょうか。

【委員】

有識者委員会のまとめとなりますので、それなりに筋の通ったものとして、読めば一通りのことが理解できるものであるべきだと思います。そうなるかどうかを私たちとしては確認をしたいということです。

【技監】

これまでの議論の中でいただいた意見をまとめて、資料3の別紙のとおり将来像として示しておりますが、これが最終的に絵にできる部分と考えています。先ほどの話では、これに見合うような絵を見ながら、書かれていることが正しいか、不足がないかどうかと確認したいとのことでした。ある程度、ここに書かれている内容はラフスケッチで書き始めていますので、それを見ながら議論いただくことは可能です。

【委員】

先ほどの委員の意見でもライフスタイルに言及されていましたが、私もそのようにまとめるのが良いのではないかと思います。報告書をまとめる際に、委員から意見を聞いて、方向性1から6までの要素を個別に書くというよりは、都市像のところでは総合化して書くべきだと思います。文章も絵も含めてどんなライフスタイルが行われるのかがイメージして、それがどういうものか見ながら議論した方が良いと思います。この構成を見た時に、メインとなる基本的な方針があり、都市づくりの方向性もある。そして、目指すべき都市像が4つあるとすれば、ビジュアルで総合的に示すような空間像が必要かなと思います。成果物のイメージがそれで良いとすれば、目指すべき都市像のビジュアルも示していただければ、より議論が深まると思います。

【委員長】

最終的なまとめや報告書がどういうものになるのかということですが、字で書かれるのですか、それとも書き下し文みたいになるのでしょうか。そこに、提示された絵の部分が挿絵として入るのでしょうか。

【都市計画課長】

4つ都市像を示していますが、これに対応する絵を都市のイメージ例で描いていきます。

【委員長】

都市のイメージ例は、挿絵となる都市像の4つの骨格を、それを1枚で描

くか、2つの絵を描くか4つの絵で描くかを議論するためではないのですか。

【都市計画課長】

区が策定するランドデザインでは、4つの都市像の中でさらに4つに細分化した具体的な風景を描く予定です。有識者委員会の報告書とまったくイコールにしなくても良いので、大きな概念的な絵でまとめてはと考えるとこゝろです。資料4の別紙に区が考える様々な都市像というかライフスタイルをまとめてありますが、これらの要素が有識者委員会のまとめの中に散りばめられてあればと思っています。

【委員】

ランドデザインの策定には、東京都や他の自治体でも関わっていますが、どちらかというところのイメージがあると思います。ところが、今日の議論では、全体としてこうしたいというのはありながら、都市構造図のようなものが無くて、どこに何が当てはまるのかという話が無いため、すごくわかりにくいものとなっています。資料2の別紙にも都市づくりの方向性と取組みが書かれていますが、ここで描かれている内容も、場所によってプライオリティがあり、全部が当てはまる地域、一部しか当てはまらない地域と様々にある気がします。一括りにして、練馬区のランドデザインとして説明して、その後に施策の展開が都市計画マスタープランへ繋がっていくことが、見えづらいと感じます。そもそもランドデザインの中に都市構造図が無く、ポンチ絵みたいなものだけで良いのか。スケッチはあくまでも写生ですから、あってもなくても良い位に思います。それよりも構造としてどうして行きたいのか。ここが弱いから変えていかなくてはいけないとか、良いところは伸ばしていくと、もっと強く謳っても良いのではと思います。

【技監】

これまでの有識者委員会では、最終的な成果物の議論はしていないと思います。ランドデザインでは、全体の都市構造をベースとするマスタープラン的なまとめ方が一般的であることは認識していますが、そこを意識するのではなく、練馬区の将来のまちで営まれる暮らしを、部分的ではありますが、具体的に示していきたいと考えています。都市全体でどう構築されるかよりも、個別的に示していきたい、30年後を考えた時に、特色あるまちが区内各所に出来ることをイメージとして出していきたいというのが区側の思いです。

【委員】

具体のイメージがないと打出しにくいことはありませんか。

【技監】

具体的な場所を示して、将来的にこれを目指してまちづくりを進めますと

いうと、即地的になり過ぎてしまい、30年後を語りづらくなるかなと考えています。

【委員】

理想論と現実との差をどのように埋めるのが、まちづくりだと思いますが。

【委員】

二律背反のものも結構あると思います。練馬区のまちの理想が並んでいるだけで、具体的にどこかが全然わかりません。特定の場所でこうするべきだという話まではしなくても良いと先ほども言いましたが、やはりある場所でこういう姿が総合的に派生されます。それにはある場所では緑が豊かだ、ある場所では緑が少ないが利便性が高いと、そういう姿まではしっかり示すべきだと思います。

【委員長】

今の議論で「ある場所」というのは、成果物にどの場所かを書くべきだということですか。

【委員】

それは難しいと思いますので、今回はそこまでは必要ないと考えています。

【技監】

例えば、「練馬の駅前が」とは出せないとしても、「農地が残っている住宅地ではこうあるべき」「駅前ではこうあるべき」「中層化が進んでいるような住宅地ではこうあるべき」と、なんとなく概念的に「こういう地区ではこうあるべき」と、もう少しわかるようにということでしょうか。

【委員】

将来のまちの姿を区が提示して、「こうあるべき」という時代ではないと思います。ただ、ある程度は実現の可能性があります、こういうまちづくりなら区も支援しますとの発信になるようなランドデザインが必要ではないかと思っています。良いことばかりを並べて書いても何の意味もないと感じましたので、発言させていただきました。

【委員長】

この議論は整理した方が良くと思いますが、関連してその他の意見はありますか。

【委員】

この議論の中で誰が主体かと言ったら、区民が主体だと思います。この図を見た時に、結局イメージができるのは、上から見た鳥瞰図ではなくて、区民の目から見たらどういうまちづくりになっているかというところだと思います。先ほどライフスタイルという話がありましたが、例えば子育てをしている人たちから見た将来、まさにここに書いてある「みどり豊かな環境で誰もが安全・快適に暮らし続けられる」というのは、子育ての世代から見るとどういうイメージなのかなと。例えばその後子育てが終わって、今度は地域の中で何か活動していきたいなという人から見たときはどうなのかな。通勤の際に道路がすごく危険な状態であるとしたら、バス便とかいろんな所にあるまちはどうなのかなと。将来こういうまちになってほしいというのが先ほどのアンケートの結果ですし、まさにその目線でパースを描くことが、求められていると理解しています。この議論は確かに抽象的かもしれないし、どこの場所を指しているのかわからないかもしれませんが、練馬区全体でやることは無理だと思います。地域性があまりにも違いすぎます。練馬区というまちの中で、自身が区民として30年後にどういう景色を見られるかを想像する意味で、私はこれを作っていくことに意味があると思います。例えば商店街ですが、皆が集って楽しくしているという、区民から見たパースを書けば、それが一番ダイレクトに伝わるのではないかと思います。

【委員】

やはり、区民の方からのアンケートの結果というのは重要だと思います。練馬区という住宅地だからできるような、車は走ってはいけない遊歩道で区内を回れるような新しい形を作っていくことが不可欠です。そこに向かって、ある程度は誘導していかなければならないと思います。現在あるものや、足りないものとか、これから高齢者が増えるからこうしようとかではなく、どうやって誘導していくかを議論しないと意味が無いような気がします。現在と全然違うような図がないと、区民も興味を持ちません。道路は、そこで生活する人がゆっくり歩けるような環境であるべきですし、「練馬環状1号線歩道」があったらすごく面白いと思います。区内を歩いて観光できます。公園のようなイメージで歩けるような道が出来れば、そこでは新たな商売が生まれてきます。新しくまちを組み立てていくことが必要だと思います。だから、ある程度誘導するというか、「将来こうなったらいいのでは」というまちづくりが出来れば良いなとすごく思います。

【委員長】

地域性みたいな要素を入れるか入れないかの話と、委員会としてどのレベルまで議論してそれを絵に語らせるか、その2つの論点があります。地域性については、マスタープランではないと話もありましたが、確かに農といえば北西部ですし、地域性がそれぞれあります。地域名を入れずに、一般系と

して全部描いてありますが、それをどのように整理するのか、あるいは図面にするのかしないのか、そこはこの段階で整理しておく必要がありますので意見をまとめたいと思います。

【委員】

みどりの視点が分散的に入っていますが、やはりみどりの豊かさを区民とどう作っていくのかというプロセスが必要です。街路樹も画一的に管理ではなく、地域の意向も踏まえながら多様な環境の街路樹帯を作っていくような、多様性があるみどりが示されるのが理想だと思います。30年後ではなく、30年間のプロセスを見せるような絵が必要です。地域の環境が活かされているような姿だとか、構造的ポイントとか、空間整備のされ方、それが軸となって地域の特色が活かされたデザインがあると非常に良いと思います。みどりの視点では、豊かさとそれを享受する人々の関わりが見えてくるのが大事です。そういった点では地域性というのは出した方がいいと思います。

【委員長】

絵に描いて地図に落とすということもあり得ますが、区全体にも関わりますので、どう整理していくのですか。

【委員】

本来は、空間計画として、ネットワーク上に様々な資源があって、どこをつないでいくのかという戦略が重要です。これまでの議論から、たぶんそのようなものではないものが求められていることは理解しています。区の典型的なまちや市街地を具体的にイメージして、そこでの生活シーンを描写するものが良い。これから練馬区が取り組むべき重要な都市づくりの課題を反映しているようなエリアをうまく選んできて、それを念頭に置きながら描写していくべきではないでしょうか。例えば、現状分析の結果として課題があると思います。そこで空間計画につながるような地理的な分析を行うと良いのではないかと思います。

【技監】

今の意見を聞いていて、これから描こうとしているところをゾーンで示して、エリアごとの目指すものが連動した全体図があると良いかもしれないと思いました。それと、区民の行動を状態で示すにあたって、それを実現していくためのプロセスとなる方法を考えていく必要があります。例えば、みどりの話で言うと、区民と協働して管理していくことを目指していかないとけないとか、そういう方向性を示す。大きな場所としてはこのあたりのゾーンをイメージして、それと連動する区民の行動の状態と実現するため方向性を示すぐらいかと思います。

【副委員長】

基本的にはそれでいいと思います。ただし、ネットワークだから意味を持つみどりや交通などは、個別の地区ごとのモデルだけだと、それをネットワークとして形成する意思表示がどうしても漏れてしまいます。抽象的でも構わないので、ネットワークの部分は別にまとめた方が良くと思います。

【委員】

30年後の区民が見る景色、風景を表現するのがパースになりますが、全体としてできるものと地域によって特性があるものに分けられると思います。大きなものと中的なもの、あと小的なもの、それを4つと決めずにレベルによって変えていき分かりやすく集約していくことが良いように感じました。

【委員長】

地域性があるものは具体的には将来像を示さないとの発言がありましたが、課題によっては当てはまらないものがあると思います。それを地域の課題として一枚程度に、ネットワーク的なものも合わせた絵として有識者委員会のもとに相応しいものを事務局で準備願います。

【参与】

様々な絵の準備を進めていますが、このテーマの中でも地域を代表するものが結構あります。それを該当ゾーンのうまくまとめて表現すると、即地的にはなりません、その曖昧さが逆に大きく夢を与える政策になる可能性があります。それをどんどん載せていくと非常に限定的になります。ひとまず課題ゾーンについてはご指摘の形で整理を試みてみます。最近は、このようなランドデザインが多くなりました。東京都のランドデザインでも抽象的なゾーンをいくつか示すものとなっています。

【委員】

これよりは具体的だと思いますが。

【参与】

もう少し課題ゾーニングとそれからネットワークをどう扱うのかを事務局で整理します。

【委員】

練馬区にも個人の会社とか法人企業が結構あり、練馬区に住んでいて区内に勤めている人もたくさんいます。面白いことを発信している企業もたくさんありますが、そのことが一切出てこないため何かを表せないかと思います。

【委員長】

「住宅都市」に限定してしまうと今の意見部分が入らなくなります。先ほどの絵の話ですが、1枚にすべての要素が盛り込まれていると言われても、読む方はわからないと思います。それぞれの方向性でも良いのですが、何か文言を加えて、それに挿絵として入れていただくということで良いですか。ただし、先ほどの話にもありましたように、静的ではなくて、人の少し動きがある、プロセスが分かるものを4個でも6個でも挿絵にし、その成果品は最後に区がまとめるランドデザインと一対一に対応しなくてもいいので、有識者委員会として言いたいことが伝わるものにしていただきたいと思います。

【委員】

資料4にアウトライン的なものはありますが、例えば都市像と都市づくりの方向性はどちらが先に載るのかだとか、全体の流れがどうなるのかが分かりません。資料2の別紙をみると、都市づくりの方向性は目指すべき都市像に落とし込まれるのかなと想定されますが、その整理をしっかりと行い、どのように絵を入れ、文言を入れるのかを精査いただきたいと思います。

【技監】

これまでの有識者委員会での意見では、方向性みたいな話が多かったと認識しています。今回の資料は、その到達点として目指すところを確認ができるように用意しています。

【委員長】

このまとめでいいのかという点と、先ほどあった働く部分はどのようにするかという点を議論いただきたいと思います。

【委員】

確認ですが、目指すべき都市像は、練馬区全体として目指すべきということでしょうか。

【委員長】

地域性ということでしょうか。

【委員】

大なり小なり目指す都市像が書かれていますが、総論的で、練馬区のランドデザインとして考えた時にこれで良いのか疑問に思います。

【委員長】

「利便性と魅力にあふれた駅周辺と快適に暮らせる住宅地」のようにAと

Bが異なることを示していて、両方あることが大事であると言っているように見えますが、表現が足らず明確ではありません。本来であれば明確に分けた方が良いでしょうに感じます。

【委員】

全体として目指すべき都市像はあっても良いのですが、それだけでは、結局、総論的になります。何度も言いますが、ライフスタイルあるいは即地的ではないとしても、地区別にこんな生活ができる場所がほしいというように都市像として示されていることが望ましいと考えます。

【参与】

具体的にどう描いたら良いのでしょうか。

【委員】

非常に大きく言えば、例えば郊外型のライフスタイル、近郊型のライフスタイルなどがあります。

【参与】

課題ゾーンで整理することができると思いますが。

【委員】

その一帯で将来どのような生活が実現するかという話です。

【参与】

即地で書かずに、即地的にというのは結構難しいと思います。具体的な場所が伝わらないといけません。

【委員】

特定の場所ということではなく、例えば駅前とかということです。

【参与】

それは今も駅前でこうすると記載しているわけなので、駅に該当することは一応、即地的には伝わると考えます。

【委員】

東京都のグランドデザインも確かに茫漠とはしていますが、多摩の郊外的な代表的なライフスタイルの記述があり伝えることができます。しかし、この資料では伝わりません。大なり小なり何を目指すべきなのかが書かれるべきだと思います。

【都市計画課長】

総花的には見える部分はあるかと思いますが、区民が見たときに、自身の住んでいるところに当てはまることが想像できるようにしたいと思います。例えば、土支田に住んでいても農地がありますが、石神井にも農地があります。自分が住んでいる地域や最寄りの駅周辺、幹線道路が近くにあればこの道路のことかなと理解していただけるようなものにしたいと考えています。

【委員】

例えば、最初は即地的に地名をいれて、最後に除くみたいなイメージにすることで、その違いをはっきりさせることができます。

【副委員長】

資料3には4枚の図がありますが、これは同じ場所ではないと理解しています。この4枚は生活様式のイメージに近い気がします。練馬区全部をこの4つの都市像で包含するのか、局所的にはこうするとの話なのか、少し混乱しています。

【委員】

要素が組み合わさって都市像になっていることは理解しましたが、ある空間に対応して、そこでどのような暮らしができるかをイメージできるものが一般的には都市像となります。例えば、住宅と農地が共存するまちとなると練馬区の西側のイメージです。駅周辺というとおそらく拠点的な駅を中心としながらイメージできます。しかし、それが練馬区を全部網羅しているかというそれは違います。割り切っているということだと思います。

【委員】

割り切るのであれば、目指すべき都市像を記述しないとの選択肢もあるかと思えます。基本方針を実現するために、都市像を削除して方針の1から6までとする。これで練馬区の将来が出来ますとする。先ほどの意見のように「働く場所の話がどこにある。」となれば、方針に入れることができます。無理やりに4つの都市像にするのであれば、これをなくした方がすっきりとします。

【委員】

真ん中の部分をすべて取ってしまうということですか。

【委員】

4つの都市像を基本方針の説明として構成するようにする。そうすると、都市づくりの方向性の項目がそれぞれに生きていきます。あまり場所を特定しないのであれば、その方が無難かと思えます。

【参与】

前回の委員会で、委員長から委員会として成果物はないのか、あるいは区が作成するパンフレットだけで終わってしまうのかとの質問がありました。今回、報告書にまとめることを明確に提案しています。報告書としては、有識者委員会での議論の中心となった目指すべき方向性を主とし、基本とする方針は区のグランドデザインで整理するという考え方もあるかと思えます。要するに、有識者委員会の報告書と区のグランドデザインとをどこまで関連付けるかという非常に重要な核心となる部分の話です。

【委員長】

今回、区側でも若干方針を変えて、有識者委員会の報告書もまとめますとのことですが、それにしても方向性と基本とする方針が明確ではないとの議論があります。これを整理しておかないと次に進むことができませんので、ここで議論しておきたいと思えます。

【委員】

まとめ方としては2つの意見があると思えます。目指すべき都市像のボリュームを抑えて、大きな方針の中のサブの方針くらいにしておく。個別具体のものは別でまとめる。または、すべての要素を入れる。どちらかでまとめていただければ良いと思えます。

【技監】

グランドデザインと銘打っていますが、練馬区全体を全部塗り切るわけではなく、重点とする「いいまちの像」といいますが、それをモデル的に示していくというのが、私自身のビジュアルのイメージです。それを前提とすれば、全体像というのはとても簡単で、全体像の中から特筆したものを表現できれば良いと思えます。この都市づくりの方向性もすべてを網羅してはいませんので、あくまでもピックアップされたものです。それを練馬区で特筆的に表すとこの部分になり、結果としてそれ以外の全体像が浮かび上がることに繋がることになるイメージしています。

【委員長】

基本とする方針と都市像の部分はどのようなまとめとなりますか。

【技監】

全体像は軽くして6つの方向性でまとめるか、4つの都市像と6つの方向性が並列すると分かりづらいとの指摘がありますのでどちらかに統一します。

【委員長】

基本とする方針を無くすわけにはいかないと思えますが。

【技監】

全体像は、ちょっと簡単に描くようにします。

【委員長】

これを簡単に書くのは難しいと思います。「基本とする方針」という表記が良いかどうか分かりませんが、全体として練馬区はこういうまちを目指すという内容を、都市づくりの方向性の文章を包含してうまく表現していただきたい。

【委員】

都市像と方向性の表現が近いように思います。都市像というのは30年後を考えると非常に大事なことです。先ほどのネットワークと地域の関係性を骨格として示せる部分だと思います。一方で、方向性は、課題に応じた側面があると思いますが、この役割をきちんと整理できれば、両立できるのではないかと私は思っています。ネットワークの図の中に、地域的な関係性が見て取れるような図を描き、そのあとに課題ごとの具体的な方向性という形で位置付けができると思います。

【委員長】

基本とする方針の部分は、目指すべき姿であって目標とするもの。そして方向性の部分は、それを実現するためのいくつかの手段としての表現になっていると思います。目標はさらに書き込みを必要とすると思いますが、イメージを端的にまとめた短めの案、それとうまく表現をまとめた絵を事務局で検討してください。

【委員】

方向を示すものは絶対に必要です。これまで議論されたことをうまく整理して盛り込むことができれば、実り多きものになります。

【参与】

最後になりますが、平たく言えば、有識者委員会のまとめは区のランドデザインの絵に繋がる要素です。それぞれが重要だと考えているので、明確にしているということです。有識者委員会のまとめの中で大きく美しく表現すれば、区のランドデザインに吸収されますし、そうでなければ区のランドデザインにおいて表現することになります。こちらでも作業を進めていますので、お見せしてどうするかを判断いただくということでお願いします。

【副委員長】

もうひとつの選択肢として、目指すべき都市像ではなく目指すべき街区モデルにして、都市ではなく街区であれば、絵に合わせることができると思います。

【参与】

街区のように見えますが、街区とすると違和感があります。

【委員長】

意見をまとめると、即地的ではないけれど区全体として、地域ごとの課題に対する答えが盛りこまれ、それに加えてネットワークの形成を示す絵を一枚用意して、それが基本とする方針に見合う絵となる。それから6つの方向性については、区側で作成しているものを流用し挿絵として入れる。これを次回までに事務局で準備いただくことでよろしいでしょうか。

【技監】

目指すべき都市像はすべてを網羅するものではなくて、都市像のパターンを4つにするかどうかは再検討しますが文章的に示して、都市づくりの方向性にある取組みが必要だと説明する。練馬区で考えればこの部分に該当することを示していくようなイメージでしょうか。

【委員長】

ただし、地域像を示すわけではないということですね。

【技監】

全体像ではなく、目指すテーマがいくつかあって、それらが練馬区でいうと、例えばこのあたりに該当しますということを、おぼろげながら示すのかと思います。

【委員】

要するに地域像をモデル的なものとして、練馬区の実情に合った4つの目指すべき地域像があって、それを一枚の絵に限定せずに示していけば良いのではと思います。

【技監】

そのうえで、その方向性を説明するようなイメージです。

【委員】

形式論になりますが、地域像と方向性を直列でまとめるのが良いのか、地域像に合わせてしまうのが良いのかを、分かりやすさの観点で検討いただければと思います。

【委員長】

それでは、まとめ方についてはただいまの議論の方向性で整理するとして、働き方なり働く場についてどのように盛り込むか議論したいと思います。

【委員】

まず、「住宅都市」の住宅部分は除いた方が良いと思います。例えば、これからの将来を考えたときに、研究開発センターがまちの一角にできる可能性もあるかと思います。「住宅都市」にするとそぐわなくなると思います。

【委員長】

基本とする方針の標語と補足説明の内容が、別のことを示している感じがします。

【委員】

「住宅都市」は、生活都市なりに変更するのが良いと思います。住む場所だけではなくて、働く場所としての魅力づくりも重要なテーマです。テレワークであるとか、住みながら働くようなライフスタイルも働き方改革として進めていこうとしています。住みながら働けるようなライフスタイルは、練馬区でも広がっていく可能性があり、それが新しい若い人を引き付けることに繋がるかもしれません。拠点だけでなく、住みながら働く、もしくは住む場所と近い場所で働けることに価値があると思います。そのことは、方向性や基本方針の中で都市像として示すべきではと考えます。

【委員長】

多様な働き方やライフスタイルが可能になるような住宅を備えていくということによろしいでしょうか。

【技監】

従来のように工業的な地区ですとか事務所が集約している地区を、これから練馬区の中に設けることは難しいと思います。住まうと共に働く、あるいは駅前のような近接な場所にサテライトオフィスがある環境は、練馬区でも定着するのではないかと思います。一方で、改めて大規模な誘致となると厳しいと思います。

【委員】

現実問題として住宅地に誘致するようなことは難しいと認識しています。

【委員】

でも何十年という歴史がある会社が多いですから、既に溶け込んでいると言えないでしょうか。

【委員長】

そのとおりだと思います。「住宅都市」と規定すると、外れてしまうものがありますので、表現を工夫して多様性を含んだ形にしてください。

【委員】

「働く場」の記述がまったくありませんが、必要ないと考えるのでしょうか。

【委員長】

「働く場」の記述があればさらに良くなると思います。区のグランドデザインとの兼ね合いもありますので、例えば多様な働き方を可能にするライフスタイルとして整理することを検討してみてください。

【技監】

内部的な話となりますが、「都市のグランドデザイン」は都市インフラをベースとする物理的なデザインのため、生活スタイルの変化をどのように描けるかと考えると、難しい課題ではあります。

【委員】

例えば、絵をつなぐような表現が可能かもしれません。

【技監】

概念図などでは描けますが、スケッチのような絵となるとやはり難しいと思います。

【委員】

検討をお願いします。

【都市計画課長】

駅周辺のところで、例えば、高層化した建物の中にあるシェアオフィスというのは描けるのかなと思います。

【委員】

農地の中で働くこともあります。幅広く考えれば、例えばレストランも働く場です。いわゆるオフィスである必要はないと思います。例えば、カフェ的な場所でパソコンを使って仕事をしているみたいな絵でもいいと思います。

【委員長】

絵の中で働く要素も想定していることが分かる程度にしておいてください。

【委員】

駅周辺での「働く場」について記述ができると思います。

【都市計画課長】

多様な働き方で捉えるか、それともオフィスの場で捉えるかは、地域によっても異なりますので、どのように表現できるかを少し検討させてください。

【委員長】

遠くに働きに行く人もいれば、家の近くで働く人もいます。

【参与】

福祉系の施設では、鉄道沿線で分担しあうという発想があります。そうすると、新たな雇用が生まれるという議論が必要となり、それを練馬区が受け止めるという考え方もあると思います。いわゆる広域的な誘致の中で雇用の場をどうするかという視点もあります。多様な働き方が可能になることであれば、表現できる幅は広がると思います。

【委員】

やはり、私としては「働く場」を入れていただきたい。

【委員】

「働く場」はとても重要です。商店や企業も大事だと思います。

3 その他

【都市計画課長】

《次回の開催日時等について説明》

【委員長】

それでは、本日の会議はこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。

(以上)